

# チャコールファーム

「大阪」と聞くと皆さんはどんなイメージを持たれますか。おそらく多くの方が梅田や難波といった大都市を有する大阪を想像されると思います。では、そんな大阪で炭を作り研究している場所があるといわれるとどう思われますか。「大阪でそんな場所があるのか」と驚かれる方も多いと思われそうです。その場所は大阪の北部、高槻市にあります。JR高槻駅からバスで40分。坂の多い住宅街をしばらく進んでいると、景色は一変し山道に入っていきます。山道を抜け、バスを降りるとそこにはどこか懐かしい日本の田園風景が広がっています。それはここが大阪ということをおぼろげに忘れてしまうほど、のどかでゆっくりとした時間が流れていました。今回はそんな高槻市で炭を作っておられる「高槻バイオマス粉炭研究所」を訪れ、炭へのこだわりをはじめ、竹炭を利用した商品を販売されている「チャコールファーム（竹炭雑貨ショップ）」の想いについて、聞かせていただきました。

## 炭の有効活用

竹や木だけではなく、とうもろこしの芯や玉ねぎ、梨などの農業残渣（野菜を中心とした作物の栽培において、収穫後に園場などで発生する作物の非収穫部のこと）も実は炭にすることが出来ます。普通は廃棄されるものであっても、このバイオマス研究所にあるプールの状態を使用することによって炭化を可能とし、燃料としての有効活用を実現しました。今まで色々なものを炭化させてきましたが、一番の変わり種は岩手県から送られてきた牡蠣の貝殻です。動物性のカルシウムを持っているものを炭化するため海のミネラルを持っており、今までにない全く新しい炭となります。チャコールファームの商品として作っている竹の炭は消臭や湿気を取る燃料にもなり、竹炭で焼いたさんまはとても美味しいです。様々な用途がある竹だからこそ、竹炭を商品として一般の人に広く使ってもらいたい。チャコールファームを作ることで地域の人の資源の循環を実感してほしいと思います。二年ほど前からシユーカーパーをはじめ冷蔵庫に置く炭なども販売し始めました。



## 窯について

窯の中の温度は、最終的に八百〜千度にまで上昇します。また、炭二トンを作るのに必要となる材料（炭化前のもの）はその五倍の十トンです。窯に入れた材料の表面から吸い込まれた空気は下にある空気の通り道を通り、窯横の装置で吸い上げられます。三百度にもなった蒸気で上昇する空気熱を活用することで、水をお湯に変えています。この場所に「研究所」と名付けているのは、みんなに研究材料となる色々なものを持ってきてもらいたいという意味を込めています。一ヶ月で三十トンの材料を再利用できるため、この窯を色々な場所で展開していきたくいです。元々高槻に住んでいたこともあって、窯を作れそうな場所をグーグルマップで調べると高槻で作ることにこだわりました。高槻で炭を作りますとすると、インパクトもありますね！



## 炭について

窯の下の方に堆積した材料が順番に炭になつていきます。また上に竹を被せることで熱を止める役割をし、表面が灰で白くなつたら炭化は終了です。その後水をかけて炭に水を吸わせ、表面から空気を吸われないようにして炭化を止めます。水は炭の熱で蒸発するたため、排水の必要はなくエネルギーも使わないです。



広葉樹は針葉樹より熱量が高く、上質な炭ができるため、基本的には炭にするのは針葉樹ではなくて広葉樹です。竹は予め割っておかないと節のところに入り、空気が入って爆発するため加熱時に注意が必要です。



# この仕事を始めたきっかけは？

元々はデザイン系の仕事をしていたのですが、その時から「60歳を超えた時に違うことができていたら良いな」と思っていました。そんな頃に「端材を使つて家具を作りたい。」と会社にオーダーが来て興味を持ち始めたのが環境問題です。その時にこれだ！とピンときたことから社会人大学院へも通い始め、環境について学び、竹炭に出逢いました。まさか自分が製造業をするなんて、夢にも思っていないんですけどよ。(笑)



# チャコールファームの名前の由来は？

「チャコール」というのは最初、バンブーやバイオマスなども迷いました。でも頭文字はCが良いなーというの思つていたので、Cから始まるチャコールにすることにしました。(笑) 「ファーム」というのはその名の通り、農場の様に竹炭が広く伝わつていつてほしいというふうなイメージですね。



# プール式の窯はこだけですか？

日本に十四箇所の窯がありますが、プール式の窯で同じように固形炭を作つているのはこだけです。他の場所では粉の炭を主に作つています。燃やすのではなく熱をうまく管理し、空気にできるだけ触れさせず蒸し焼き(オーブン)にしているイメージです。

# なぜそこまで炭にのめりこめるのですか？

炭の有効活用によって確実に地球温暖化を防げるという実感があるからです。太陽光パネルを点在させることによつて化石エネルギーではなくて再生可能エネルギーを使うことも大切ですが、

二酸化炭素を吸収した木などを炭化して作られた炭は二酸化炭素を固定し、空气中への放出を減らすことにつながります。どんな形であれ人々に関心を持つてもらい、地域で何かするということを徹底的にするべきだと思います。

# チャコールファーム(竹炭雑貨ショップ)のこれから

「大阪もん」(大阪府内で栽培・生産される一次産品とそれらを現在料にした加工食品)の認証を受け、そのシールを商品に貼れるようになったことから、少しずつ認知されてきていると思います。自分のお店は持っていないですが、色々なお店に商品をおいてもらえようにもなつてきました。フェイスブックのメッセンジャーにも商品を買いたいとメッセンジャーをいただけるので、今後はネット販売も考えていますが、地域の人に使つて欲しいという思いから、販売を渋つています。チャコールファームは「地元をベースにどこまで広げられるか」ということを大事にしています。

一般の人に使つて欲しいし、商品は地域の材を使つていることから、自分も地元の環境に関わつていこうという実感をお客さんにしてもらいたいです。「これはこの山の竹で作つた炭ですよ」と愛着をもつて使つてもらいたいので、広範囲での販売というネット通販を渋つてしまつているというのがあります。

竹炭が広まるのは勿論うれしいですが、商品への親近感を大切にしていきたいですね！



# おわりに

チャコールファームさんはハッピーアースデイ大阪二〇一七にご出店いただいております。当日にお話しをさせていただいたところから、今回の取材実現となりました。お忙しいにも関わらず、炭や商品へのこだわりを熱心に丁寧にお話し下さいました。「炭は環境問題を解決するための可能性を無限に秘めており、商品を通して人々に愛着を持ってもらいたい、地元をベースにどこまでも広めていきたい。」というお話がとても印象に残っています。

「炭」というものから、改めて環境問題について考える有意義な機会となりました。最後となりましたが、今回の取材依頼を快くお受け下さいました島田様、本当にありがとうございます。

